

## 地理空間情報活用の最新動向紹介



清水会長

日本測量協会（日測協、清水英範会長）ら12団体で構成するG空間EXPO運営協議会は、地理空間情報技術の最新動向を紹介する「G空間EXPO2022」を6、7の両日、東京都港区の都立産業貿易センター浜松町館で開いた。ICT施工にも役立つ高精度測位システムなど最先端の技術やサービスを紹介した。オンラインでは25日まで展示や講演を視聴できる。

12回目の今回は「G空間で創るデジタル社会」をテ

### 日測協ら運営協議会、G空間EXPO2022



ーマに、昨年度に続きリアルとオンラインを組み合わせるハイブリッド型で開催した。中核イベントとなる「地理空間情報フォーラム」では国土交通省をはじめ官公庁や民間企業、業界団体が出展。地図を活用した防災技術や3D空間情報

ドをた  
関係者  
来場し  
た  
ハイブリッド型は、業界関係者が多く参加した。今年も多くの人が参加した。

分析サービスなど、多様な最新技術をパネルや映像を使って紹介した。

先進的な取り組みやアイデアを紹介する「Geoアクトイビティコンテスト」には高校生や大学生も出展。地方气象台と共同開発した防災アプリや、メタバース（3D仮想空間）内でフィールドワークを体験できるシステムなどを紹介した。

会場では、産業技術総合研究所（産総研）による自律型ロボットが自動的に人を避けながら走る実演が行われた。開発を主導する佐々木洋子主任研究員によると実際の人混みの空間データを収集し検知精度を高めることで、狭い場所での車両の自動運転などへの応用が期待できるといふ。